



地元の声を一番大切に

済生会栗橋病院の病棟活用し医療施設を！

11月議会 一般質問
現在地にて
外来診療・救急外来を



地域医療支援病院 済生会栗橋病院
一般 305 床を加須市へ 19 床は残る

済生会栗橋病院移転

理事会の内容・現在の施設活用は

問 済生会栗橋病院の移転は「埼玉県支部理事会で決定」すると認識しています。11月9日開催された支部理事会の内容はどうでしたか。

答 加須市に移転するが、栗橋病院の医療提供を引き続き検討する案が示されました。市長は基本構想案に病院側と努力していく旨の発言をしています。

問 現在地の医療資源を活用し、外来診療など必ず守らなければなりません。再整備の選択肢はどのような案があるのですか。

答 済生会栗橋病院長からは、19床以下のベッド数を持つ診療所で一次的な救急は担える。その可能性を考えていくとの話が出ています。

問 新たな病院の機能始めるに当たり支援していくのですか。

答 支援については、初期投資にどのぐらいかかるかなど検討します。

栗橋病院を視察した結果は

問 担当課で栗橋病院の施設を視察しました。結果はどうでしたか。

答 屋上・本館・東館・救急センターなど適宜改修され、当面は医療機能を維持できると捉えています。

「かかりつけ医」が少ない支援を

問 栗橋地区では「かかりつけ医」が少なくなっています。開院に向け、医師会と連携し必要な施策をすべきです。

答 平成30年10月1日現在、市内の開業医、診療所は63箇所。地区ごとの医療機関の開業状況には偏りがあり、現在開業している医療機関も医師の高齢化や後継者などの問題により、今後廃院することも考えられます。久喜市医師会と連携を図り、状況の把握に努めていきます。

ポトピアの基金活用を

問 久喜市には「ポトピア栗橋」からの寄附金があり、これも活用し「かかりつけ医」を増やす、結果が出る施策に取り組んでほしいと思います。

答 かかりつけ医の先生は身近であり、病気の初期治療を担う先生がいらっしやることを我々も懇願しています。医師会の先生方とも連携をとりながら情報の把握に努めていきます。

気軽に利用できる公共交通網を

市民が出かけ
元気な街に

久喜市は合併して今年10年目を迎えます。合併すれば旧久喜市内を走っている「循環バス」が、栗橋地域でも走るのでと、期待した方も多かったのではないのでしょうか。

実証実験後を延長

久喜市は、旧久喜市内のみを走る「デマンドタクシー実証実験」を2020年3月31日まで延長します。利用の仕方も、直前に電話申し込みが可能に。久喜市全体の公共交通見直しも先送りとなりました。

栗橋地域にも循環バスの声を

栗橋地域は人口密度が低いことから「デマンド交通」にしたといえます。私は栗橋地域にも人口密度の高いエリアはある。走らせるべきと質問。しかし、答弁は変わりませんでした。デマンド交通(くままる)は

タクシー車両を活用し 使いやすく

必ず予約がとれ、100円で目的地まで行ける。そんなデマンド「くままる」にすべきです。台数を増やせば予約が取れない問題は、すぐ解決します。タクシー車両を活用すれば事業者も利益が出ます。「くままる」の場合、経費の80%が国から特別交付税として、交付される事業。運賃を100円にして、気軽に利用できるようにすべきです。

健康寿命が伸びて元気な街に

埼玉県鳩山町は100円で実施中です。みんなが出かけて元気な街になれば、認知症にならず、健康寿命が伸びること間違いのないと思います。



第3子から
給食費が無料に



子育て支援として、学校給食費を無償にすべしと、予算の修正案を出しました。その結果この11月議会で2019年度から実施することになりました。小学校、中学校、特別支援学校の、小学部及び中学部に在籍し、児童生徒が3人以上いる保護者を対象に、3人目以降の学校給食費が無料になります。

給付の仕方は、保護者がいったん納付し、その後10月と次年度3月に保護者が指定する口座に振り込まれます。対象となる児童数は286人、1400万円の予算です。

党議員団は2人目以降も対象にすべしと求めて来ましたが、今、全国では学校給食の無料化が広がっています。

栗橋小学校の学校給食
埼玉県 自由献立部門で一位に！



自校方式だからこそその1位だと思います。大規模センター建設に合わせることなく、良いものは長く続けるべきです。自校方式給食の継続を求めます。

南栗橋 液状化対策事業



地下にパイプを埋め込み道路が凸凹



南栗橋 10 丁目付近、凸凹の道路が修復された道路。(2019.1月撮影)
地盤が落ち着いた頃、再度舗装します。

液状化対策 地下水位低下工法とは

地下水位を表土から地下3メートルぐらいまで低下させ、地下で液状化が起きても地表に影響を与えないようにする技法

対策の進捗状況はどうか

パイプを埋め込み、水抜きを実施、地盤に影響を与えないよう、少しずつ水を抜き検証しながら進めて来ました。

ほぼ目標値まで地下水位が低下し、国からの指示もあり、地下水の動きを常時モニタリングしています。

心配された、地盤沈下も水平に沈下しつつあります。地下水の計測は、東京湾と地表から両方を計測中です。

生活道路の環境整備促進を

佐間・八甫をつなぐ道路 進捗状況・完成は

東鷲宮方面から栗橋に向かって走る道路、佐間・八甫線は、旧栗橋町の時代から早期の整備が求められて来ました。道路が狭く、車輛が交差する度に「ひやっ」とする道路です。

2018年度、土地の買収が終了。既存の道路を、可能な場所から拡幅しながら進め、幸手方面、国道4号に向かう道路との接続は、十字路にして信号をつける予定です。
現在警察とも協議中で、使用開始は当初予定より遅れ、2021年度予定です。早期の整備を求めて行きます。



交差点となる部分の工事状況
国の補助金を活用し進めている。

高すぎる国保税！引き下げる為に立場の違いを越えて

暮らしを守れ

高すぎる国保税は引き下げを

日本共産党は、高すぎる国保税を下げるためにどうすれば下げられるか。財源も含めて具体的な政策を発表しました。

所得は低いのに

保険料はいちばん高い。国保税！

健康保険料は加入している保険組合によって違います。例えば「協会けんぽ加入者」年収400万円家族4人の場合19.8万円ですが、国保加入だと42.6万円。2倍以上の格差です。

この25年間で国保税は一人あたり6.5万円から9.4万円に。一方、所得は276万円から138万円に下がっています。国保には、退職後必ず加入し、国民の4人に1人が加入、社会の公平性から見ても正すべきです。

全国知事会からも国に要望中

協会健保なみに引き下げる財源はある

全国知事会でも、是正するため国に対し1兆円を要求しています。財源は、株の配当金に対する税率を欧米並みの30%にすれば、これだけで1.2兆円生まれます。

高い一番の要因は均等割

「均等割」という保険料の算定方法は国保だけです。これをきっぱり廃止します。

まず「子どもの均等割」引き下げを提案

議員団では、まず「子どもの均等割分廃止」を提案しています。赤ちゃんが生まれると国保税が上がる。これでは子育て支援に逆行しています。

違いがあっても協力は可能

立場の違いや社会保障政策の違いがあっても、社会の不正を正す。知恵を出し合うことは可能です。共産党はそのために力を尽くします。

日本共産党議員団が 提出した 消費税増税中止を求める意見書 否決

増税するなら富裕層や大企業に応分の負担を

党議員団は、「消費税増税中止を求める意見書」を提出しました。結果は8名のみの賛成で否決。消費税の増税は「高齢化社会が進み、社会保障費が増加する。後世に負担させるわけにはいかない。増税分は社会保障に使う。」と言われ続けて来ました。しかし実際は、年金が削られ、医療費の負担が増し、その一方法人税の減税が進みました。前回消費税増税以降、個人消費は減

り続けています。これ以上の増税は暮らしを直撃し、8%増税した時のように消費不況になります。絶対中止すべきです。

消費税増税に頼らない道がある

消費税増税に頼らなくても財源はあります。法人税の減税によって内部留保が増え続け420兆円以上。株の売買で巨額の利益を得ている富裕層。ここから財源を生み出すことこそ、政治の責任です。

幸手市・杉戸町のごみも一緒に燃やしてほしい

久喜市は、現在3箇所焼却している焼却場を、菖蒲清掃センターに集約する計画です。新市長誕生後、「幸手市・杉戸町のごみも久喜市で焼却を」との要請を受け、久喜市は「検討し12月末までに結論を出す」としていましたが「検討を延長したい」市長の口からは今年3月末ぐらいまでの説明です。

ゴミ処理「受託事業」はきっぱり断念を

市が、焼却施設拡大の説明を地権者の方や、排煙など環境の影響を受ける方に説明したのは11月末が最初です。地域の方は、話が違う、建設拡大は反対、疑問、拙速に進めないでほしい、などの声が出ています。



現在の菖蒲清掃センター

メリットに固執せず、「関係する地元の理解得ることなしには進めない。期限は12月末まで」としたことを踏まえ、きっぱり断念すべきです。

